

1	明月入懷	(めいげつにゆうかい)	英傑の生まれる瑞祥をいう、明朗な有り様 又、師匠の恩などの深く厚い事
2	自彊不息	(じきょうふそく)	【易経】自ら努め励んで怠らぬ
3	一字千金	(いちじせんきん)	一字が千金の価値を持つ程文字または文章が優れている
4	筆端造化	(ひつたんぞうか)	文章の書き方が、万物を造り出して育てる、造物主
5	下筆有神	(かひつゆうしん)	【杜甫】「読書万卷を破り、下筆有神あるが如し」とある
6	温厚和平	(おんこうわへい)	物やさしく篤実、和やらいで穏やかな事
7	公直無私	(こうちょくむし)	公正で私心の無いこと
8	独歩天下	(どっぽてんか)	天下に独歩する、優れて天下に追隨する者の無い事
9	中正無私	(ちゅうせいむし)	至中至誠の道を守り、私する事がない
10	独坐觀心	(どくざかんしん)	独坐して、心に邪念の起こらぬ様努める
11	風不鳴條	(ふうふめいじょう)	条は枝ともかく。風が吹いても枝を鳴らす程強く吹かない (上の句)
12	雨不破塊	(あめつちくれをやぶらず)	雨が静かに降って塊を破らない。天下泰平の事 (下の句)
13	物外遊	(ぶつがいゆう)	万物のひしめく世間の外で遊ぶ
14	醉如愚	(すいによぐう)	何もかも忘れて酒に酔う
15	天長地久	(てんちょうちきゅう)	【老子】地は物と争わないから万物が之に帰し、長久である
16	莫須有	(ばくすゆう)	有るべき事なからんや、無いとは限らぬ半信半疑の言葉
17	千歳寿	(せんさいじゅ)	長壽なこと
18	寿旦昌	(じゅしてかつさかなり)	寿命が長く、栄える事
19	南山之寿	(なんざんじゅ)	南山は周の都「終南山」詩経に南山寿の如く驚けず崩れずとあるより転じて、長寿をことぶく言葉
20	無一物	(むいちぶつ)	【禅林】何も無い事、無きが故に無尽蔵する事を云う
21	日月齋光	(じつげつさいこう)	日、月、光に等し アット言う間に過ぎてしまう事
22	天網恢恢	(てんもうかいがい)	天の網は広く大きい、網の目が粗い様だが悪はもらさない
23	疎而不失	(疎なれど失わず)	【老子】長い目で見れば良い人は必ず幸いを受け、悪人は不幸を免がれない
25	孤掌難鳴	(こしょうならしがたし)	【水滸伝】片方の手だけでは鳴らない。相棒が居ないと事は成就しない
26	至仁無親	(しじんはしんなし)	【莊子】最高の仁愛は親疎愛憎を超える
27	達人大觀	(たつじんたいかん)	道理に精通した人は、物事を高い所から見る。
28	英雄欺人	(えいゆうぎじん)	英雄が策略をめぐらして、人の意表をつく
29	水到渌成	(みずいたりて、きよなる)	水が流れて来れば自然にみぞが出来、時が到れば事の成就するたとえ
30	拈華微笑	(ねんげみしょう)	釈迦の説法を迦葉一人がその真意を悟り、微笑した故事から以心伝心の妙を云う
31	大道無門	(だいどうむもん)	大道は無象無形で人を拒否する門関もないが参入しがたい

32 千差有路 (せんさゆうじ)
33 知足不辱 (ちそくふじょく)
34 天地不仁 (てんちふじん)
35 精思力踐 (せいしりきせん)
36 遇事剛果 (ぐうじごうか)
37 縁木求魚 (えんぼくきゅうぎょ)
38 奇貨可居 (きかおくべし)
39 木石心 (ぼくせきしん)
40 人道邇 (じんどう、ちかき)

41 静自適 (せいじてき)
42 能藏拙 (のうぞう せつ)
43 放下便是 (ほうげびんぜ)
44 無寒暑 (むかんしょ)
45 内厚質正 (ないこうしつせい)
46 国士無双 (こくしむそう)
47 縦心物外 (じゅうしんぶつがい)
48 振衣濯足 (しんいたくそく)
49 邨情山趣 (そんじょうさんしゅ)
51 不落因果 (いんがはおちず)
52 無依道人 (むいどうじん)
53 錦上鋪華 (きんじょうほか)
54 清風明月 (せいふうめいげつ)
55 牛刀割鶏 (ぎゅうとうかつけい)
56 至仁無親 (しじんはしんなし)
57 二人同人 (ふたりどうしん)
58 其利断金 (そりだんきん)
59 冬日可愛 (とうじつをあいすべし)
61 巧言乱徳 (こうげんらんとく)
62 輝光日新 (きこうにっしん)
63 穆以温 (ぼくをもっておだやか)

物事の種類や様子に様々な路がある。
足るを知れば辱められず。分を守る者は辱めを受けない
天地が万物生成化育するのはその自然にまかせて仁道などを行わない、不仁と云う
深く細かく思い、力一杯実践すること
事に当たって、心から強くて思い切りが良い事
【孟子】 木によって魚を求む、方法を誤れば事は成就しない喩
珍しい商品を求め機を見販売し大儲けをする
万物万象を仏心有り、つまり真理と見る立場から木と石を例として用いた
【孟子】 深遠な道も実は極手短かに、或いは存在する。
左伝：人間の道こそ身近な大切な事で有る。
静かさが自ずから叶う
稚拙感をよく内蔵している
身に付けた技術を手放す事が前に進む事につながる。
【禅語】 寒い時は寒さを、暑いときには暑さに成りきる、徹しきる事
内厚くして、正を質す。心を豊かにして是非をただす
昔から今まで並ぶものが無いさま、天下第一の優れた人物
世俗の外で思うがままに振る舞う
着物を振ってけがれを祓い、世俗を超越する喩
村のあり様、山の趣
人事は因縁と果報による
依存することなく、自分の道を進む事
うるわしい上にうるわしさを加える
【李白】 初秋のすがすがしい感じ
牛刀を以って鶏を割く、小事を処理するのに大器を用いる喩
【莊子】 最高の仁愛は親疎愛憎を超える
友情の極めて固い事深いまじわり
【易経】 金属を断ち切る義
冬の日の光は温暖で愛すべきである＝温和な人のたとえ
巧言徳を乱す、巧みな言葉は時としてその徳まで乱す
【易経】 光輝き、日 新た成り
穆をもって温か。和らぎ穏やかな事

64 景雲飛 (けいうんひ)
65 鳳鳴朝陽 (おうめいちようよう)
66 冷暖自知 (れいだんじち)
67 華氣随酒 (かきずいしゅ)
68 鶯歌和人 (おうかわじん)
69 光明蔵 (こうみょうぞう)
70 無一物 (むいちぶつ)
71 心広禮胖 (心広く体、ゆたかなり)
72 抜山蓋世 (ばつざんがいせい)
73 無風有浪 (むふうゆうは)
74 春波万里 (しゅんぱばんり)
75 緑木求魚 (えんぼくきゅうぎょ)
76 多岐亡羊 (たきぼうよう)

77 野酌送春 (やしゃくそうしゅん)
78 醉紅自暖 (すいこうじだん)
79 外師造化 (がいしぞうか)
80 中得心源 (ちゅうとくしんげん)
81 奇珍異寶 (きちんいほう)
82 以形寫神 (いけいしゃしん)
84 驟雨急風 (しゅううきゅうふう)
86 湖光雲淨 (ここううんじょう)
87 火樹銀華 (かじゅぎんか)
88 海角天涯 (かいかくてんがい)
89 雲山遠鐘 (うんざんえんしょう)
90 衆山神秀 (しゅうざんしんしゅう)
91 渾厚華滋 (こんこうかじ)
97 雲高氣静 (うんこうきせい)
98 秋物感人 (しゅうぶつかんじん)
99 遠山如画 (えんざんによが)
100 賞心不盡 (しょうしんふじん)

景雲は瑞相の雲、目出たい雲が空に広がる
鳳凰が山の東に鳴く。天下太平の目出度いしるし
【禅語】冷暖は自分で知ることが出来る 実感こそ頼りである
春、華の香り、酒にしたがう
鶯の声は人をなごます
【禅林】無明を破り真如の光を輝かす智慧、自己の本心を云う
心が虚無空明で、一物も存せぬ事
心の正しさは誠にこれを求める。
【史江】項羽の言 その時代を蓋い包む、気概や才能の大きい事
春の海の、のどかな様
春の海の、のどかな様
【孟子】木によって魚を求む、方法を誤れば事は成就しない喩
逃げた羊を追い道の多岐で見失う故事から、学問の道も多岐に渡ると真を得る事
が難しい喩え
野原で酒を飲み行く春を惜しむ
酒を飲んで、自ら暖まる
自然に師事し内心に修業すれば善に成る
写真を撮るように自然を写しても人間の物にならない、心に写してみても心源を得る
貴重でまれな人物や物事を言う言葉
現実的な形だけでなし、精神的な性質を追求する
鋭い雨と風。大規模かつ急速を表す
湖の反射、雲がゆっくり棚引いている 自然のひとつま
華麗な灯籠と花火
はるか彼方に遠く離れている事、最果ての地
遠くの山から鐘の音が聞こえてくる
気高く神々しい多くの山の事
大きくて深みの有るつややかなはな
空は澄み渡り気も穏やかである、秋の形容
秋の景物が人の心を動かし、感動させる
とおき山、絵のごとし
賞心=心楽しいこと尽きることなし

101	気若幽蘭	(きじゃくゆうらん)	幽蘭の芳あいの様に気が若い
102	栄耀秋菊	(えいよくしゅうきつ)	秋の菊よりも鮮やかに輝く
103	言為心聲	(げんいしんせい)	声・表情・振る舞いは心を表す
104	以形寫神	(いけいしゃしん)	神とは心のこと
105	韜光養徳		自己の才知を表わさず心の徳を養う 才徳を隠して人に知らせない
106	鉤深致遠		深遠な理を捕らえ、極める
109	獨坐觀心		独坐して、己の内心を觀照す。
110	寂然不動		精神の安らかに定まっていること
111	退水蔵鱗		閉地に隱退することを、魚に喩えた言葉
112	隨處作主		【臨濟録】どこで在ろうと主体的に行動すれば立つ所いづれも眞実の道につながる
113	百花斎枝		多くの花が一斉に咲く、形式や風格は別であるが一斉に発表される
114	萬木爭榮	(ばんぼくそうえい)	生命力の一場面
115	深造自得	(しんぞうじつとく)	深く道に達し、自分で会得する
117	湖色春光	(こしょくしゅんこう)	湖面が春の光でキラキラ光っている様
118	梅妻鶴子	(ばいさいかくし)	妻を取らず、俗世を離れ
120	野無遺賢		民間に残された賢士が無いほど、人材をあまねく登用する
121	無信不立	(むしんふりつ)	【孔子】人民に信頼が無ければ政治は成り立たない
122	虎頭燕頤		虎の如き頭、燕の如きあご、達人の異想
123	金声玉振		【孟子】才知と人徳とが見事に調和していること、素晴らしい人格に大成する喩
126	寬仁厚德		為政者は大らかに慈しみ徳は厚くなければ成らない
127	禮尚往来		礼儀は一方的でなく、双方で交換する事が大切である
128	光明蔵	(こうみょうをぞうす)	光輝く未来を持っている。
129	莫忘想	(ばくもうそう)	【禪林】妄想は虚妄の思想であって、下らぬ事を考えるなど言う機語。
130	図書獨娛	(としょどくご)	画を看、書を一人で楽しむ事。
131	枕書高臥		【菜根譚】書物を枕にして楽しく寝ること
134	遊戲三昧	(ゆうぎざんまい)	仏の境地に徹して、何ものにも捉われず自在で有る事。
135	智圓行方	(ちえんこうほう)	全てを知り、行いは正しい。
136	窓下有清風	(そうかせいふうあり)	窓の下は、そよそよと清々しい風が吹いている
137	玩物喪志	(がんぶつそうし)	【書経】物をもてあそべば志を喪う、好みに従って外物を愛玩すると事の本質を失ってしまう
138	心凝形釋	(しんぎけいしゃく)	心気集注して自己の形体を忘れる 大自然と一致する

140	神遊天地	(しんゆうてんち)	体から精神が抜けて、天地を楽しむこと
143	乗風破浪	(じょうふうはろう)	風に乗り浪を破る 風に乗じて万里の波濤をのりきってゆくさま
144	氷壺玉鑑	(ひょうこぎょっかん)	心が極めて潔白な形容・鑑は鏡です
145	圖南鵬翼	(となんほうよく)	南極を目指して羽ばたく鵬 大事業を計る人物
146	松菊猶在		節義の高い人物はなお残っている。
147	萬法唯心	(ばんぽうゆいしん)	あらゆる物は心を離れては存在しない、心は全ての根元である
149	清風出袖	(せいふうしゅっしゅう)	袖より清い風が出でて
150	明月入懷	(めいげつにゅうかい)	明月の懷に入る 149・150 組印 英傑の生まれる瑞祥を言う (唐李嗣真より)
153	雲行雨施	(うんこううせつ)	雲が流れ雨と成って恩恵を施す
155	千差有路	(せんさゆうじ)	色々な路がある
156	大道無門	(だいどうむもん)	大道も至道も同じ、大道は無象無形で拒否する。155・156 は対句・・・仏の大道に入るには一定の門は無い、色々どの路にも通じ自由に独歩できる
157	不恥下問	(ふちかもん)	恥じずに下の者に尋ねる。
158	心廣體胖	(しんこうたいはん)	【大学】心広く穏やかならばおのずと体ものびのびくつろぐ
160			
161	漁遊釜中	(ぎょゆうふちゅう)	煮られようとしている釜で泳ぐ魚 危険が眼前に迫るのを知らない喻
162	鐵心石腸	(てっしんせきちよう)	心が鉄石の様に堅く動かないこと
163	神武不殺	(しんぶふばつ)	神の如き武威は何者をも殺さずして勝つ。
164	民生在勤	(みんせいざいきん)	【左伝】民生の根本は勤労にある
165	栖遲一邱	(さいちいきゅう)	役人には付かず、遊息して居ること
166	雪引詩情	(せついんしじょう)	白居易の詩
167	仰不愧天	(ぎょうふかいてん)	仰いで天に愧じる・天に対しても恥ずる事は無い、清廉潔白
168	俯不作人	(ふふさくじん)	167 の対句
169	探賾牽隱		隠れて明らかで無い物を究明して明らかにする・幽深得がたき物を探り、隠れたものを求める。
170	懲忿室欲		君子は自分の怒りの気持ちを懲らしめ、欲望を起こさぬ様にする
171	觀心證道		【菜根譚】心を觀、道をあかす 心に道をさとり
172	六經注我		經書は我心の理を讀釈説明する
177	千年桃核	(せんねんとうかく)	【槐安国語】千年待てども、芽の出ぬ桃の種・どれだけ骨を折っても物にならぬ事
185	吳越同舟	(ごえつどうしゅう)	仲の悪いもの同士が同席する事
186	溫柔敦厚	(おんじゅうとんこう)	【礼記】穏やかに素直に優しくわだかまり無き事

189	溫慈恵和	(おんじけいわ)	ものやさしく憐れみ深く、恵み柔らかく
190	棲恬守逸		【菜根譚】超然たる心境
191	心凝形釋		【柳宗玄】心が其の物に引きつれられて、凝まり身体がとろけて自己を忘れる
192	晨露夕陰		【礼記】朝の露、夕べの木陰
193	樹木方盛	(じゅもくほうせい)	夏の季節、樹木は夏になり盛んに茂る
194	妙造自然	(みょうほうしぜん)	妙は自然に造り (いたり)
196	心地乾淨	(しんじかんじょう)	心を洗いさっぱりすること
197	物我両忘	(ぶつがりょうぼう)	【菜根譚】物と我と二つながら忘れる、虚静なる心
198	秋夜賞月	(しゅうやしょうげつ)	秋の夜、月を賞ずる
211	祥光満室	(しょうこうまんしつ)	めでたい光が部屋にみつる
212	瑞氣盈門	(ずいきしゅうもん)	目出度い「氣」が、家門に満つる
213	梅傳春信	(ばいでんしゅんしん)	梅の便りが春の便りである
215	好古敏求	(こうこびんきゅう)	【論語】古学を好み 修養に励む
216	有備無患	(そなえあればうれいなし)	平素備えをしておけば、心配は無い
217	松蒼柏翠	(しょうそうはくすい)	【菜根譚】松柏は寒気に遭っても緑を変えない、操志の堅い形容
218	愚公移山	(ぐこういざん)	【史記】愚かな者でも、コツコツやれば山も動かす
219	柔吾所好	(じゅうごしょこう)	吾、好む所に従う
220	以文會友	(いぶんかいゆう)	文をもって友を会す
221	柳緑花紅	(りょくえんかこう)	色も形も違うがこれが自然の真の姿である
222	蒿談娛心	(こうだんごしん)	【楽広】俗事を離れた話に心を楽しむ
223	殺身成仁	(さつしんせいじん)	【論語】たとえ、吾が身を捨てても仁を全うする
224	劳而不伐	(ぼうしふばつ)	【易経】実績をあげても誇らない
225	思無邪	(おもいよこしまなし)	【詩経】心正しく、邪心の無いこと
226	一生稽古	(いしょうけいこ)	人生は稽古あるのみです
227	吉慶如意	(きっけいにょい)	めでたい事が思う様に成る
228	春可楽	(たのしむべし)	春花咲く時に楽しむべきである
229	墨縁居	(ぼくえんきよ)	書の道のつながり
230	知足者富	(ちたるものはとむ)	【老子】自己の分限に満足できる者は心が富む
231	天馬行空	(てんまぎょうくう)	自由奔放で何物にもとられない事を云う
232	考槃	(こうはん)	【詩経】気の向くまま山水の間に遊び楽しむ
233	家中有寶	(かちゅうたからあり)	宝は自分自身の中にある。

236	蘭交	(らんのまじわり)	心を同じくする者の言葉は、蘭の様に芳しい
237	同符合契	(どうふごうけつ)	割り符を合わせ、意気を投合する
238	喫茶去	(きっさこ)	普段のままの気持ち
301	何處求心	(かしよきゅうしん)	【禪語】自分の心(しん)を見つめなさい
303	眼矇朧	(がんろうぼう)	廻りの物がはっきり見えない様
308	四海浪平	(しかいろうへい)	四方の海は浪もなく穏やかである・・道元言葉
310	鉄樹	(てつじゅ)	広西省に産し、六十年に一度咲く事から、あり得ない話
311	觸破	(しょくは)	【道元の遺言】突き破る
312	流泉作琴	(りゅうせんさくきん)	水のせせらぐ幽かな(かすか)音を琴の調べとするー自然法爾の消息ー
313	競春華	(きょうしゅんか)	春、花が競う様に咲いている
316	照顧脚下	(しょうこうきゃつか)	足元を注意せよ
317	東風解凍	(こちかいとう)	春風が氷を溶かす、春が近いです
318	百折不撓	(ひゃくおれふとう)	不屈の闘志
320	仁者壽	(じんしゃじゅ)	【論語】仁徳有る者は仁に安んじて憂える事が無いから長寿である
321	学然後知不足	(まなんでしかるのち、たらざるをしる)	【呉讓之模刻】
322	好学為福	(がくをこのんでふくをなす)	【呉讓之模刻】
323	立春大吉	(りっしゅんたいきち)	春の季語・何かいい事有りそうな・・・・・
324	長相思	(ちょうそうし)	相手を思う事
325	三餘	(さんよ)	雨の日・夜の時間・冬 読書を楽しむ三つの時間(私の室号：三餘亭)
326	日々是精進	(ひびこれしょうじん)	いつも精進しましょう
327	生涯一学生	(しょうが いいちがくしょう)	吉川英治氏の座右の銘
328	身土不二	(しんどふじ)	体と土(環境)は一つと言う意味で、四里四方で育った物を食べ生活するのが健康に良いと言う考え方=廻文
329	雪月花	(せつげつか)	雪・月・花 日本人に流れる四季をめぐる優雅な心を言う
330	寿	(じゅ・ことぶき)	祝いの言葉・祝い